





方年此平志良公  
 如去云午到公心  
 休所成休公到休  
 休所成休公到休

[illegible]

27

大正五年九月廿五日  
中島

物名記

市陳了之氏彭多乃松林氏之劉氏

東のふりやうに

李下注法

此乃海內名流所書

初物は未だ手印の跡が有る。

中環電車

十六日  
林...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

漢書卷之九十四上匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上匈奴傳第九十四上

匈奴傳第九十四上





一、非友非敵

信有之矣

和信  
世校門式全

一  
ちりめ

但

一古

但

一、非暴力不合作

修竹亭主人翁今吾知氣

孫傳

位程式

一  
ち  
り  
ぬ

任白斌

一古

他

古之聖人懷柔天下  
以道不以德  
德者下之所歸  
道者下之所歸  
德者下之所歸  
道者下之所歸

四流圖

愛古堂

星月之

古風  
西華江之  
風光

留學之徒

白粉

宣統  
辛亥  
內務部

望之

柏次郎

一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、  
一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、  
一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、

一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、  
一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、

一、此書之最後、  
多有人、是、  
今、由、

十

一、材料部、生產部、技術部、設計部、

此乃  
家書  
也

一、此處有物者也。其所以爲利也。

而多均至介夜中少所創多至也乃之東施

一、當時即依稱爲「新」依自來

信司方以原香月柏年方新以冬年

程氏楊子止印

吸痰厥宜，亦宜，陰性，而胃氣弱，

中、新、系、方、比、多、人、在、前、

一、五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一百。

敢為一信之石而無害於君子之來也

和之程  
即而等  
故乃即  
因主因

古印文

一、來月 忠孝院 前 志法 梅子

蘇州府志

一、父子帳目，自義學及家塾，子弟者

阿教猶摩多奴中家本居格安西

若くは子孫の爲に書き置かざる可き事

一 福永の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

寺田の事記 元弘元年四月廿七日

一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也

十九  
一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也

一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也  
一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也  
一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也  
一 此處有古碑之入書十部之入近來有入  
以本字同本也



五、御奉行の御用  
此等御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

御奉行の御用は、御奉行の御用と云ふ事なり。

中庚子年人書  
西庚子年人書  
東庚子年人書  
南庚子年人書  
北庚子年人書

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

庚子年

田二象人  
建白

一象人  
建白

書人  
建白

書人  
建白

書人  
建白

一  
建白

一  
建白

一  
建白

一  
建白

天皇御命

吉日

皇太后

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

天皇御命  
以是日所生皇子  
名曰高天原皇子  
命曰高天原皇子

一、高麗玄聖王出虎榜之上如仙帝  
と改められたり云々云々云々

[illegible]

一 修 習 書 法 中 心 校 校 長 山 本 浩 一

張公是位飛揚人  
善於操刀切肉人  
吾人今日由南看北  
看人互由東看西  
相見也方為改口  
也

[illegible]

一、此書の序文、神志、子細、  
万世の傳へるべきものなり。  
口説く人、其の意を、  
口説く人、其の意を、



本稿より付し四月五日午下門名三所  
一、同室兄弟の妹之弟飛雲松平左衛門尉校  
少将其時実員人字三信方は此所にて生れり

今月廿四日  
 通市官所  
 肉山平  
 及今校  
 明  
 上校

[illegible]

為るに中書省

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

劉伯俊之妻也

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

中書

中書

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

劉伯俊之妻也

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

劉伯俊之妻也

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

劉伯俊之妻也

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

一 乃爾者為人劉伯俊之妻也

劉伯俊之妻也

一 印兵を以て之を治むるに由りては

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て

一 印兵を以て



吾別家より申す

一 此書は野史なり（左）の如くは對馬の列傳  
に人々所々名實を記し（右）の如くは中々不詳  
なりと有るに申す

一 此書は下迄は世に傳へられしに非ざる

一 此書は中々方角を越えしに非ざる（右）の如く  
は然りと有るに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 此書は又三傳に記されしに非ざるなり  
又此書は中々方角を越えしに非ざるなり

一 馬路の昔の風景を写した一冊の絵巻  
を主として、刻意の筆で描かれた風景  
画の多い一冊の絵巻  
一 京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻

一 京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻  
京都の町並みを写した一冊の絵巻